

2000年 卒業研究要旨

男性の家事分担と性別役割分業観に関する一考察

嶋 知紀 (7071-1042)

指導教官 : 笹原 恵

研究の背景

今日の社会では、経済や社会の状況、女性のライフスタイルの変化から夫婦共働きの家庭が増えている。また、女性が働くことをすすめる意見が強くなっている。社会とのつながりを持つことにより、精神的に成長するとともに、経済的に夫に依存せず対等な関係になることなどを目的にしている。こういった動きにより、男性の家事分担に対する期待はより大きくなっている。しかし、現在では男性の家事労働時間は、女性が働いているいないに関わらず短い。そのため、女性の側には大きな負担が強いられている。妻が夫から自立しようとしているのに、夫が妻から自立しようとししないのはおかしい。そういう疑問を抱いたことが今回の論文を書くきっかけとなった。

研究目的

家事労働がどのように発生したか、どのように女性の仕事になっていったか調べる。そして、男性の家事に対する意識変化を把握する。さらに、今後家族を作るであろう、現在家事をしている若者の意識が重要であると考え、若者の家事分担に対する意識の形成要因を探っていく。そのうえで、男性の家事分担に対する意識の現状と形成要因を明らかにすることが本研究目的である。

研究方法

『大学生の家事分担と性役割分業観に関する調査』の実施

(調査対象者、静岡大学の学生 116 人)

この調査結果を EXCEL で集計し分析をおこなった。大学生が小学校時代、中学校時代、高校時代に分担していた家事の変遷を分析することにより、現在の家事分担志向がどのように形成されてきたかを明らかにする。